

令和4年度第5回 綾部市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：令和4年12月21日（水）13時30分～15時15分
場 所：あやべ・日東精工アリーナ（綾部市市民センター）研修室

1 開会

開会あいさつ 会長 綾部市長 山崎善也

2 委員紹介

出欠状況については別紙「出席者名簿」のとおり

3 議事

第1号議案 綾部市地域公共交通計画（案）について（原案のとおり承認）

A 委員

人口が減少している中、5年後の公共交通の利用者数は大きく減少すると考える。運賃収入は減少するが運行経費は増え、行政負担額も増えていく。そのため、安定的な公共交通の運営という表現に違和感を感じる。12月17日の日刊紙で、国土交通省の公共交通見直し支援の再構築事業について記事が出ていた。綾部市の公共交通においても、この事業に申請する予定があるのか。

B 委員

現在は、地域公共交通活性化再生法に基づき、公共交通計画を作成している。その法律の一部を更新し、地域公共交通全体を見渡すような仕組みを検討している段階であり、そのことが新聞記事に取り上げられたのではないかと。制度等が決まれば、当協議会で情報共有させていただく。

現在においても、地域公共交通計画と立地適正化計画の2つの計画は連携し、まちづくりと交通を一体で考えていただくよう勧めているが、より議論を深められるような仕組みを検討しているところである。

C 委員

P42の鉄道利用促進の観点について、京都や園部の専門学校や大学に通学する学生は、大変喜んでいるため、内容の拡充は是非とも実施してほしい。

健康長寿定期65について、65歳で制度があるのはよいが、後期高齢者の75歳から、もう一段のサービス、制度があってもよいのではないかと。運転免許証の返納を考え出すのは、80歳を過ぎてからであるため、年齢に応じて段階的に支援金を増やせば、大変利用してくれると思う。

大阪バスの記述は必要ないか。

D 委員

十分な採算で利益が出る路線はないが、一定の維持ができる路線と、赤字は大きいけど維持すべき路線がある。採算が見込める路線は、利用実態にあわせて時間やダイヤを設定すれば良い。高齢化率が高い地域や、免許を持っていない方が多い地域では、生活上の弱者は交通においても弱者になりうるため、バスの配車やルートの設定は、そのような人たちに十分配慮して設定してほしい。

E 委員

計画の修正については、施策が短期と中長期に分類されわかりやすくなった。また、交通事業者の主な役割を定義されたため、その役割を果たしていく必要があると考えているところである。一方、12月16日に来春ダイヤ改正を公表し、綾部エリアの一部の列車を減らさざるをえない状況である。鉄道事業者として、ダイヤ減便は商品価値を下げることなので、苦渋の選択である。公共交通の持続的な維持については精一杯努力を続けるが、民間事業者だけでは難しいところもあるため、地域の皆さんと一緒にやっていきたい。

F 委員

施策の人材確保対策については、うまく進められると良いと考える。人材確保が全ての課題である。P38の乗合デマンドなどの実行は人材確保が重要であり、実行可能なものはその時の状況を確認しながら協力していきたい。

G 委員

現在はドライバー不足で、一般の予約のお客様のところを回るので手がいっぱいである。一般客以外の地域のデマンドや乗合タクシーの協力はいまの状態ではなかなか難しい状況である。

H 委員

口上林に自主運行バスに準ずるものが書かれており、長年の思いが結実した。みせんバスは、12年前から初めて、今までの積み重ねが反映されたのが嬉しく思う。みせんバスの運行経路は、於与岐地区から市立病院までだが、今年4月から、同じ東八田地区の施福寺地区（19戸）も会員になっていただき、施福寺地区を経由する運行経路に変更した。利用者数は、開始当初（平成22年）は1ヶ月で90人ぐらいだったが、現在は70人程度まで下がっていた。ただ、新しい地区の人に乘っていただくことで、今年4月から90人程度に戻り、結果、経営的にも助かった。人口の自然減少もあり、開始当初は96戸だったが、今では72戸まで減少している。新しい会員19戸により同程度まで戻った。現在は、会員の人のみ利用できるが、1便あたり利用者数等を増やすためには、沿線の人にも乗っていただけのように変えていかなければと考えているところである。

I 委員

実際に移動するにあたって、地域拠点での動き方、フロンティアを使った移動、タクシーを使った移動など、どうやって移動するのかまだ理解できていない。ただ、高齢者になると自動的にフロンティアに入ってしまうと理解している人もいる。大きな課題としては、自分で移動できる元気な人を、どうやってバスに乗ってもらうかである。元気な人を公共交通へ導く方法が見つからないことが一番問題だと思う。あやバスが観光バスのように使えれば、地域にちょっと馴染んでくる。敬老会などの催しで、離れた集会所への移動をあやバスで移動できると、イメージが変わってくると思う。

J 委員

人材不足はある。あやバスは毎日の運行のために人材は確保できているが、内情は人員は変わらず、高齢化もしてきている。49ページの情報発信の中で、綾部市と一緒に人材確保をしていき、若い人材を育てていきたい。

K 委員

以前上林線に乗った。慣れないこともあり、大町乗り換えで40分待ち、温泉に行った。温泉から帰るときは、施設前から出発する便に乗り過ごしてしまい大町からあやバスに乗って帰った。あやバスに乗る経験がないとスムーズには利用できない。本線はスムーズに移動できるが、

それ以外の路線は、フロンティアなどと連携が必要。過疎化すると、乗る人も少なく運転する人も少なく大変な計画だと感じた。

L 委員

推進体制について、奥上林や山家で地域と綾部市が協働して検討する施策が書いてあるが、地域側が高齢化しているため、地域に過剰な負担にならないかと懸念する。最初は問題ないかもしれないが、しばらくすると年をとって事業の継続が難しくなるかもしれない。地域住民に過剰負担とならないように留意してほしい。

M 委員

MaaS 関係者と話す機会があり感じたことは、位置情報等は将来的には必ず必要になる。計画としては進めていただきスキルを高めてほしい。

11 月から本職のほうに外国人の人が来ている。その中で、電車に乗り遅れた、タクシー乗り場がわからないなどの問題が出てきている。綾部駅の動線に問題はないか。例えば、綾部駅を降りてから英語表記の案内はあるのか。

N 委員

前回協議会や庁内調整部会を踏まえた修正により、今後 5 年間でやることがわかりやすくなった。検討の方向性も書かれたので良くなったと思う。本計画は 5 年間の計画であるが、計画期間中に見直すことも可能であるため、検討の部分が具体化したら書き加え、徐々に前に進めていただきたい。

O 委員

当初よりも内容は具体的になった。ようやく、綾部市の地域公共交通計画が出来上がってきた印象である。何をどのように検討・実施するのが見えてきた。毎年、事業を評価し、その後の事業や計画の見直しに繋げ、常に計画をリフレッシュしていく。最新の世界情勢も踏まえて、計画をバージョンアップしていく。このような体制づくりのことに記載されているので、この 5 年間に期待している。

細かな点について、55 ページの地域住民の役割について、地域住民の語尾が主体的な書き方になっていない。交通事業者や行政の書き方と比べて、表現が異なっていると感じた。

53 ページの数値目標について、公的な資金を投入しているため、事業の効率化、無駄を省くことは大事であるが、行政の役割を考えると、地域のモビリティの確保が重要である。運行の効率化だけでなく、利用者を増やすために、もしくは人口減少下であるため減少幅を圧縮するために、利用促進に積極的に取り組むことについて、頭出しの公的資金投入額の圧縮や収支率の向上の部分と併記したほうが良い。

4 閉会